

事 務 連 絡

令和元年 5 月 30 日

都道府県下水道担当課長 殿
政令指定都市下水道担当課長 殿
（上記、各地方整備局経由）
市町村下水道担当課長 殿
（上記、各都道府県経由）
日本下水道事業団事業課長 殿
都市再生機構下水道担当課長 殿

国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部
下水道事業課 事業マネジメント推進室 課長補佐

下水道工事における安全管理の徹底について （はさまれによる死亡事故）

令和元年 5 月 11 日（土）、茨城県発注の下水道管路の布設工事において、下水道管路布設後の埋め戻し作業中、バックホウで砂を投入していたところ、バックホウ前方の地盤が崩落したことにより、バックホウが前のめりになった際に、バケットと簡易土留（切梁）との間に作業員が挟まれ、死亡するという事故が発生しました。

本省にてヒアリングを行った結果、以下の点で安全対策に不備があったことが確認されました。

- ・危険予知活動において、埋戻しの際の重機とのはさまれについて注意喚起をしていたにもかかわらず、必要な安全対策がなされていなかった
- ・重機の合図誘導員を配置していなかった
- ・重機の作業半径内で作業を行っていた
- ・地盤崩落の恐れがある箇所での重機による作業において、敷鉄板を敷く等の安全対策を怠った

各下水道管理者におかれましては、工事現場へのパトロール等を通じ、施工計画書等に基づく作業手順での施工や安全管理の実施などを改めて確認するとともに、安全管理に対する指導を徹底することで受注者の安全意識の醸成を図り、事故の未然防止に努めていただくようお願いいたします。

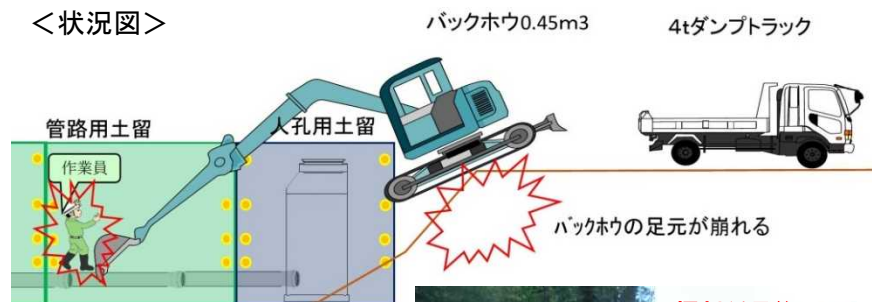
○参考資料：事故発生状況と本来の作業手順（R1. 5. 11 茨城県）

事故発生状況と本来の作業手順 (R1.5.11 茨城県)

【事故発生状況】

- 事故当日は、汚水管布設後、バックホウ(0.45m³)で埋戻し作業を実施
- 危険予知活動において、埋戻しの際に重機とのはさまれに注意することを共有
- 施工計画では合図誘導員1名と作業員2名で埋戻し工を行う予定であったが、合図誘導員を配置せず、作業員2名で工事を施工
- 埋戻し作業中、バックホウ前方の地盤が崩れたことにより、バックホウが傾き、重機の作業半径内にいた土留内の作業員がバックホウのバケットと土留切梁との間に挟まれた

＜状況図＞



バケットと切梁の間に挟まれた



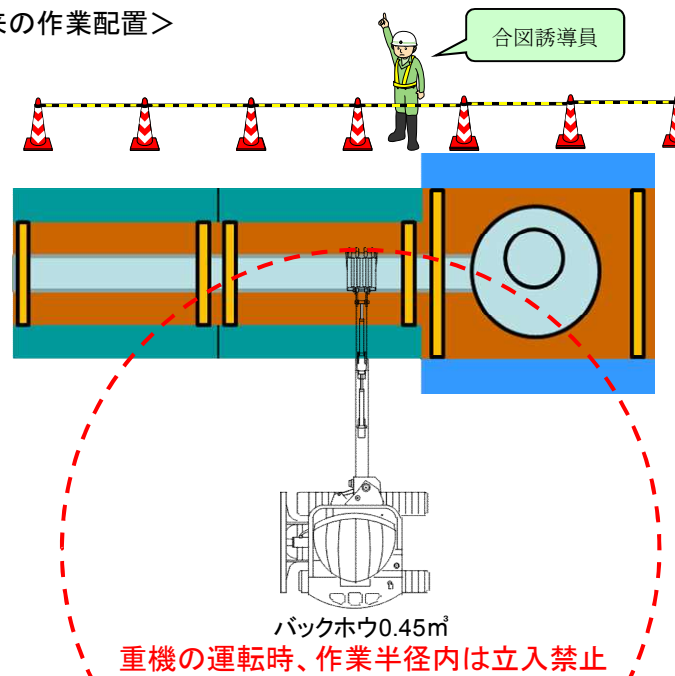
地盤崩落時の様子



【本来の作業手順】

1. 施工計画書に基づく作業手順の周知
欠員等により、施工計画書どおりの体制が組めない場合は、発注者と協議し、体制が整うまで作業は実施しない。
2. 危険予知活動の実施
施工計画書に基づき、当日の作業手順・作業体制を確認し、安全対策を講じる。
3. 適切な作業ヤードを確保の上、バックホウを安全な場所に配置
地盤の崩落の恐れのない場所で作業を行う。
やむを得ず法肩等不安定な場所に重機を配置する必要がある場合は、敷鉄板を置く等の地盤の崩落防止措置を適切に行う。
4. 作業員が重機の運転時に作業半径内に入らないよう、重機の合図誘導員を適切に配置し、作業員は合図誘導員の指示に従い、埋戻しと敷均しの作業を分離して実施する。

＜本来の作業配置＞



バックホウ0.45m³

重機の運転時、作業半径内は立入禁止